

令和6年度第1回 三島市高齢者保健福祉及び介護保険運営懇話会会議録

1 開催日時

令和6年8月8日（木） 午後2時00分から午後3時30分まで

2 開催場所

三島市役所本館2階 第2会議室

3 出席者の氏名

(1) 懇話会委員

吉富委員、三宅委員、近藤委員、堀江委員、岡田美喜子委員、榎澤委員、小島委員、米山委員、鈴木委員、堀井委員、宮本委員、三浦委員、三沢委員、原田委員、村瀬委員、青田委員、小川委員、杉山委員

(2) 事務局職員

西川社会福祉部長

(長寿政策課)

石井課長、柿島副参事(いきがい推進係長)、伊藤課長補佐(地域包括支援係長)

井上室長(高齢者福祉政策室)、中村副主任(高齢者福祉政策室)

(健康づくり課)

浅見課長

(介護保険課)

鈴木課長、渡邊課長補佐(介護保険係長)、一言主任(介護保険係)

4 会議の公開・非公開

公開

5 傍聴人

0人

6 懇話会内容

(1) 依頼状の交付

堀江委員、岡田美喜子委員に対し、社会福祉部長より交付

(2) 社会福祉部長あいさつ

(3) 協議事項

① 第10次高齢者保健福祉計画及び第9期介護保険事業計画の概要について

【事務局説明】

【質疑・回答】 特になし

② 令和5年度事業状況について

【事務局説明】

【質疑・回答】

(委員)

(1 高齢者の生きがいづくりの推進(1)生きがいづくり活動の促進)ウの老人憩いの家についてですが、他の事業を見てみるとコロナ禍であったとしてもある程度の実績がありますが、この事業は計画値のおよそ20分の1、令和元年度までを見ると(利用人数)1万人くらいあるのですが、確かに囲碁・将棋のみでなかなか利用人数が増えないのは分かるのですが、何か理由はあるのでしょうか。

(事務局)

令和3年度からコロナ禍の影響を受け、商工会議所を活動場所として利用している中で、感染防止のため囲碁については全く活動を行わず、将棋のみ短期間活動がありました。令和4年度は詩吟の会については会長の体調不良をきっかけに活動が休止し、令和5年度は囲碁・将棋のみ活動を行っていたことによります。

(委員)

詩吟の会が利用人数に大きく影響していたということですね。他にもやれるものがあればやっていってもいいのかな、と思うのですが。

(委員)

自治会連合会において、コロナ禍の影響後、縮小したのについてそのままでもいいのでは、という方向で役員の考え方も変わってきたため、稼働率が下がっているというのが今年までの状況です。

(委員)

(2 健康づくりと介護予防の充実(3)高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施) コロナ禍から訪問が難しいこともあり、ICTなどを活用して対面でなくても相談を受けられる、そういったシステムの構築はどこまで考えられていますか。

また、(エ健康管理訪問事業(75歳以上)について)訪問でフレイル予防と書かれています。訪問でフレイル予防につながるのでしょうか。外に出てもらった仕組みを作った方がいいと思います。

(事務局)

ICT等の活用についてですが、現状ではまだそういった対応が出来ていない部分が正直ございます。ですので、長期的な視点から、また、高齢の方のデジタルデバイドというような問題もありますので、そうした改善も含め今後検討してまいりたいと考えております。

訪問についてですが、まず自宅にずっとこもってらっしゃる方に対して何らかのアクションを起こして関わりを持っていくことが大事と考え、まずは訪問によって関わりを構築していくことが第一段階と考えております。そこから、外に出るような方策につなげていければと思っています。

(委員)

ICTの方ですが、確かに予算の問題や地域特性などもあるので、まずできるところ（地域）からやってみて、そこから波及していく、というような形にしていけないといつまでたっても絵にかいた餅のような気がするのですが。

訪問の方については、確かに訪問するというのも大事だと思いますが、それでは高齢者の方が来てくれる、という概念が高くなるのではないかと思います。やはり（外に）出る、出たくなるような場づくりというのをしっかりやっていないと、結局は閉じこもってしまうことになりかねないので、魅力のある楽しいことがあれば外に出ていくのではないかと考えています。

(事務局)

貴重なご意見ありがとうございます。参考にさせていただきます。

(委員)

(基本方針における指標の現状について)

指標1・2・3について、高齢者実態調査の結果が実績値となっており、高齢者実態調査は3年に一度実施するため令和5年度の目標値に対する実績値は令和4年度の調査結果となります、とあるのですが、これは令和5年度の実績値はないという解釈でいいのでしょうか。令和5年度は調査を行わないのであれば、目標値は立てられないと思うのですが。

(事務局)

高齢者実態調査は次期計画を立てるために3年に一度実施するものであり、第9期介護保険事業計画策定時に各基本方針に対して何かしら目標設定をしてその結果を出した方がよい、というご意見のもと、この調査結果が目標設定の指標になるのではないかと、このことで設定したものととなります。

ですので毎年行う調査ではないものから、どうしても3年のうち1回の結果のみを見るものとなっております。

(委員)

意味は分かるんですけどね。令和5年度は数字の出しようがない、ということだと思いますが、それであれば令和5年度の目標値が立てられないのではないのですか、ということをおっしゃっています。3年に1回しか出せませんよ、というのを率直に書いてしまえばいいと思いますが。

(事務局)

今期計画においても同様の指標を設定しておりますが、参考にさせていただきます。

(委員)

自宅で人生の最期まで生活できると考えている人の割合、という指標がありますが、これは自宅に最後までいたい、という人なのか、最後を自宅で迎えたいが出来ないという人は入っていないのか、どちらでしょうか。

(委員)

自宅で亡くなりたいが、無理だろうと思っている人、願望があり、その環境がありそうと考えている人の数値ではないでしょうか。

家族が近くにいないと難しい、それが入った数値ではないかと思います。

③ 介護保険事業計画における施設整備について

【事務局説明】

【質疑・回答】

(委員)

公募でということですが、広く一般に募集するということですか。競争入札や総合評価方式というのがありますが。

(事務局)

公平性、透明性ということで公募という形を取っております。募集要項の中でさまざまな提出書類を求めていますので、そこで精査します。

(事務局)

募集要項の中で資格要件を定めており、資産（の分かるもの）や計画書等の提出をいただく中で、市でプロポーザル方式で選定させていただく予定であります。

(委員)

(今年度)公募でどこも手上げがなかった場合は、来年度以降も公募するのか。

(事務局)

今年度なければ来年度も公募ということになります。

④ その他（資料4）

【事務局説明】

【質疑・回答】 特になし

7 閉会